

海浜 ボランティア

NPO法人 北海道海浜美化を進める会

〒005-0034 札幌市南区南34条西9丁目2-5-308

TEL・FAX: 011-582-5378 会長: 水崎 呈 発行責任者: 湯朝 肇

ホームページ: <http://www.hamabika.org>

地球温暖化防止でフォーラム開催 海洋環境の保全が重要 海浜のゴミや、縦割り行政の是正を



海岸に行けば必ずといっていいほど目に付く漂着ゴミ。自治体ではこうした心ない一部の人間が捨てる不法廃棄物の対応に苦慮している。そうした中でNPO法人「北海道海浜美化を進める会」ではこのほど、「海浜美化フォーラム2008」を開催。海の生態をみつめながら、海洋環境保全の重要性を論議した。

「地球温暖化によって二酸化炭素の放出量が増えていけば、それが海洋に吸収されて海水の酸性化が進む。そうなれば、プランクトンの炭酸カルシウムの殻が解けるなど生態系への影響が懸念される。これは海水の温度が上昇するよりも深刻な問題だ」

2月23日、札幌市内で開かれた「海浜美化フォーラム2008」で基調講演者として出席した北海道東海大学工学部海洋環境学科の服部寛教授は、近年の地球温暖化の海洋への影響を説明した。北海道を取り巻く海域は世界でも有数の漁場として知られている。極東ロシアのアムール川周辺から流れてくる流水に植物プランクトンが付着し、春になると一気に増殖して、それを餌に動物プランクトンが増え、豊かな漁場をつくとされている。



服部教授の専門はプランクトンの生態だが、プランクトンと二酸化炭素との関連について「プランクトンは海洋の二酸化炭素と太陽の光を受けて光合成をなし、酸素を吐き出す重要な役割を持っている。海水の二酸化炭素の増減が地球温暖化を解明する鍵となる」と話し、プランクトンの流れが海洋環境を調べるうえでキーワードになるという。

「海浜美化フォーラム」は今年で6回目。これまで基調講演のテーマは「森」や「川」が多かった。「森や川も海につながっていますから、森林や河川の環境を知ることは重要だと思います。ただ、今回は海の中がどのようになっているのか、海とその周辺に焦点をあて海洋環境をテーマにしました」(事務局)。



パネルディスカッションで活発な討議

第二部では服部教授を含めて、北海道漁業環境保全対策本部事務局の石川清・事務局次長、札幌学院大学の奥谷浩一教授、北海道市民環境ネットワークの宮本尚さんの四人がパネルディスカッションを行った。この中で、奥谷教授は自らのボランティア活動をもとに「いくら拾っても海岸に漂着ゴミがやってくる。

海岸美化が進まないのは、海洋・海岸を管轄する責任が水産庁、国土交通省、自治体と縦割りになっていることにある。

また、自治体に任すといっても、逼迫する財政事情があるため、美化活動にしり込みしてしまう傾向にある」と海岸美化活動の難しさを語る。

また、漁業者の立場から石川次長は、「海岸では魚網や漁具が散乱しているが、漁業者が故意に海に捨てているわけではない。漁の途中で網が引っかかり破れて漂着するケースがあるかもしれないが、それは一部だと思う。故意に捨てれば当然法律で罰せられる。最近は漁業者のマナーも良くなってきている」と漁業者を弁護する一方で、「川の近くで行っている放牧場から糞尿などの廃棄物が河川に流れ、漁場を駄目にするケースが多い」と訴える。

水産庁の外郭団体である「マリンプルー21」の調査（平成17年度）によると、全国の海岸に漂着するゴミの量は推計で約70万ト。このうち、同年度に海浜のゴミ拾いに参加した全国的人数は約76万人で約10万トを集めた。これは全体のわずか15%程度で、残りの85%が収集されずに海浜に打ち寄せられたままになっている。

全道でゴミ拾いを提唱している北海道市民環境ネットワークの宮本さんは「ボランティア活動は年々盛んになっているものの、環境美化に関しては市民の意識はまだ低い。市民が声を上げ、実際にゴミ拾いを行って美化活動をアピールすることが自治体を動かし、市民の意識を高めることになる」と地道な活動の重要性を訴える。



北海道では今年、国立公園となっている洞爺湖町でサミット（主要8カ国首脳会議）が開催される。その大きなテーマの一つが「環境」となっていることから、自ずと道民の意識も「環境」に向いている。北海道海浜美化を進める会ではサミット開催に向けて、6月22日にサミットの開催場所である洞爺湖町の海岸でゴミ清掃活動を行う予定。「我々の団体だけでなく、留学生や洞爺湖町民、他のボランティア団体と連携しながら、ゴミ拾いを行っていきたい」と同会の水崎呈会長は語る。一つの団体が拾うゴミの量はわずかだが、それが大きな輪となれば、拾うゴミの量と共に道民のモラルも意識もまた大きく変わっていくことになる。

